

救急車のサイレンを聞いたら道を譲ろう

最 近、群馬県館林市で救急車がサイレンを鳴らして交差点を右折しようとしてましたが、10台以上の車が止まらず救急車がなかなか交差点内に入れない様子ツイッター上に投稿され、なぜ止まらないのかと大きな反響を呼んでいます。この動画を見た人の反応は、「これは流石に信じられない!!」「こうした人達がいるから、助かる命も助からなくなる」と嘆く声が大半だったようです。しかし、中には「救急車のサイレンは近くに來ないと聞きづらい」といった意見もあるということです。

長い間車を運転してきた者の経験から言いますと、救急車のサイレンが聞こえないというのは、「外からの音の情報を聞く気がない」すなわち安全運転をする気がないと言っているのと同じことだと思います。というのも、車の運転は目から見る情報だけでなく、耳から入る音の情報も非常に重要な要素を占めており、その情報収集をしないということは運転をする上で非常に危険だからです。道路交通法には、赤色の警告灯を点灯させ、サイレンを鳴らして緊急自動車が近づいてきたときには、進路を譲らなければならぬと定められています。

運転中は、外からの音の情報にも意識的に耳を傾け、救急車のサイレンが聞こえたら進路を譲るようにしてください

一人で運転中はマスクを外そう

コロナ禍。マスクを着用して行動することが多いため、普段の夏よりさらに暑さを強く感じますね。マスクの装着は熱中症の危険を増やしますので、2m以内に人がいない場所では、適宜、マスクを外すくせをつけましょう。クルマを運転している人の中には、一人で乗車しているにも関わらず、マスクをしている人を見かけます。降車してから着用するのが面倒くさいからでしょうか、車の中でも熱中症にかかる危険がありますので、マスクは外して運転したほうが賢明です。というのは、マスクをしているときは口の中の湿り気のため喉の渴きを感じにくく、水分補給が遅れてしまう危険が高いからです。いちいちマスクを外すのが手間なので、塩飴や塩分タブレットなどから塩分を摂取する機会が減るといふ可能性もあります。車の中はエアコンがあるので危険は少ないと感じがちですが、窓ガラスを通して浴びる直射日光のため体温が上がりやすく汗をかきますので、夏場は喉が渇いていなくても、水分や塩分をこまめに補給する必要があります。熱中症にかかる前兆として、汗がひどくなり気分が悪くなるなどの症状がありますが、人によっては無自覚のまま突然に意識を失ってしまうような症例がみられます。運転中に意識を失うと他の車や歩行者に大きな迷惑をかける恐れがありますので、運転中はマスクを取って、こまめに水分補給や塩分補給を心がけましょう。



一人で運転中はマスクを外してこまめに水分補給をしましょう

接触確認アプリ、「COOOO」ってご存じだと思います。「使えない!!」などとの批判もありますが、仮に全員が入れていれば、間違いなく現時点で一番役に立つアプリです。ぜひダウンロードしてみてください。



Google Play



App Store